

B-36 ドライクリーニングにおける再汚染防止剤に関する研究(オノ報)
大阪市大家政 奥山春彦 藤井富美子 ○岡田伸子

目的 本研究は水洗浄におけるCMCに相当するドライクリーニング浴での再汚染防止剤の開発を目的とするが、まずその手がかりをうるために、今回は分子量の異なるポリエチレングリコールについて、それぞれの再汚染防止効果を界面活性剤エロゾールOTと比較し、両者の相乗効果および水の影響、またアルコール類の効果について検討をおこなった。

実験方法 溶剤はパークロールエチレンを使用し、それぞれの助剤を含むカーボンブラック分散液から、羊毛、ポリエステル、木綿を汚染し、汚染布の表面反射率から再汚染防止効果をもとめた。

結果 ドライクリーニング浴中での各布に対するカーボンブラックの再汚染防止効果はつぎの通りである。ポリエチレングリコールは羊毛に対して顕著であり、パークロールエチレンに溶解する分子量の範囲では分子量の大きいもののほうがわずかによい。ポリエステルではあまり効果は認められず、木綿では逆に再汚染が大きくなる傾向がみられた。アルコール類では羊毛についてメタノール、エタノール、プロパノールの順にその効果は大きく、木綿ではプロパノール、エタノール、メタノールの順に効果が大きくなる。